

町民ニーズを反映し 持続可能な金山町へ

予算編成の基本方針

「徹底議論！早期決定！」。この指針を基に令和4年度の予算を編成してまいります。

令和2年度から今年度にかけて、中央公民館のあり方やグリーンバレー神室の方向性、廃校の活用など町民生活と町財政を大きく左右する事業について、多くの方と議論を交わしてきました。議論が大詰めを迎えている今、まさに指針のとおり、町の方針を示しながら、議論を加速させ、決定することが求められていると考えます。

弾力性のある財政基盤を再構築することで「未来に向けた適切な投資」が可能となります。地に足をつけながらも、夢ある町政運営を一刻も早く実現するために、議論が進んでいる事業について、一定の方向性に沿った内容を予算化してまいります。令和4年度も、町民の皆さんが本当に必要としている事業を選択し、町民サービスの向上を図られるように慎重に予算を編成してまいります。

人口動態が及ぼす影響

当町の収入の約半分は、普通交付税が占めています。普通交付税は、人口を基礎として算出されることから、人口減少は町の財政基盤と密接な関係にあります。

令和2年度国勢調査において、当町の人口減少率は県内最大の13%となりました。また、高齢化率は今年3月末現在37・1%ですが、2030年には42・1%になると国立社会保障・人口問題研究所が推計しています。

町の児童数もさらに減少傾向。金山小学校の児童数の推移見込みでは、令和4年度の220名から毎年数名前後、全校児童数が減少してまいります。令和9年度になるとさらに減少は加速して、新入生は15名の見込みとなっています。全校児童数は、令和4年度から9年度の6年間で45名が減少することが想定されています。

20年後の人口規模で推計すると、交付税は現在より約2億4千万円減少する見通し。また、

人口構成等の推移

区分	2021	2025	2030	2035
総人口	5,130	4,814	4,376	3,963
0～14歳	517	524	471	417
15～39歳	1,027	948	845	789
40～64歳	1,645	1,425	1,219	1,101
65歳以上 (うち75歳以上)	1,941 971	1,917 1,026	1,840 1,078	1,656 1,111
生産人口率 (15～64歳人口)	52.1	49.3	47.2	47.7
高齢化率	2,672	2,373	2,064	1,890
	37.8	39.8	42.1	41.8

※2021は10月末の住民基本台帳人口、2025以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計値を使用

金山小学校児童数の推移

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9
	人数	人数	人数	人数	人数	人数
1年	38	34	34	25	29	15
2年	38	38	34	34	25	29
3年	31	38	38	34	34	25
4年	36	31	38	38	34	34
5年	37	36	31	38	38	34
6年	40	37	36	31	38	38
計	220	214	211	200	198	175

※町教育委員会調べ（2021年11月時点）

国ではコロナ禍で減収した国税を令和9年度以降の交付税を減額することで調整するとしています。すでに将来の歳入減が分かっているのであれば、今から対策を打たなければいけません。4年度予算編成においても引き続き「歳入規模に合わない事業」がないか、精査してまいります。

7つの重点事業

予算編成においても、必要に応じて縮小や廃止と判断する事業も

業もあると考えられます。一方で、町特有の課題の解決や今を乗り切るための施策については、重点的に取り組んでいきます。

具体的には、①健康づくりの推進 ②学力向上対策 ③所得向上対策 ④「ウィズ・コロナ」対策 ⑤デジタル化の推進 ⑥新しい地域交通のあり方 ⑦これからの町の観光・景観施策の確立の7事業です。詳細は左に記載のとおりです。

特に①～③の事業については、

町職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、どのような事業が有効なのか、具体的な検討の最中です。当然、4年度だけで解決する課題はありません。各重点事業において、5～10年後のあるべき姿をイメージし、結果にこだわった中長期的な事業展開を検討してまいります。

また、コロナ対策は引き続き町の優先課題です。ワクチン接種が進んだ一方で、感染症予防の観点からも、以前の生活に戻ることが困難という側面もあり

ます。だからこそ、国で進めるデジタル化を当町も遅れをとらないように取り入れ、「ウィズ・コロナ」を意識した行政サービスを實現できる予算を検討してまいります。

これまで実施してきた事業実績の分析にとどまらず、町民の皆さんの意向を掘り下げることが大切だと考えます。7つの重点事業を中心に、福祉や教育などより生活に身近なサービスを守り、そして充実させる4年度予算を目指します。

POINT

令和4年度の7つの重点事業

上記3つは、プロジェクトチームを組織し、より効果的な事業を検討しています。

▼健康づくりの推進

「支援を必要とする高齢者の増加」が当町の大きな課題となっています。生涯にわたり活躍できる健康長寿を増やすため、町民運動となるような実効性のある事業を検討します。

▼学力向上対策

令和4年度から町内の小学校が一つになります。環境の変化により児童が不安にならないようなフォローアップ体制をとりながら、かねてからの課題である児童・生徒の学力の向上について検討します。

▼所得向上対策

地域経済の活性化には、一人当たり所得の向上が欠かせないと考えます。感染症の拡大により打撃を受けた商工事業者や農林事業者の所得底上げとなる中長期的な施策を検討します。

▼「ウィズ・コロナ」対策

新型コロナウイルス感染症対策は、引き続き優先課題です。3回目のワクチン接種も徐々にその内容が示されていますが、円滑な接種の継続を含め「ウィズ・コロナ」を意識した丁寧で安心・安全な行政サービスを提供してまいります。

▼デジタル化の推進

国では9月にデジタル庁が発足し、デジタル時代の官民インフラを今後5年で作り上げるとしています。住民の利便性向上を一番の目的とし、町としてデジタル化の流れに取り残されることの無いよう行政サービスや事務事業の再構築を図ります。

▼新しい地域交通のあり方

スクールバスの中学生の利用を含むサービス拡充やデマンド交通の導入等についてニーズに応じた地域交通を検討します。

▼観光・景観施策

グリーンバレー神室一体の今後の方向性によっては、今後の観光のあり方について、大きな転換が迫られます。金山住宅の着工数減少などが課題となっている景観施策と併せて、強みを生かしたこれからの観光・景観施策を検討します。